

〈要約〉

新しい公共経営に関する一考察 — NPM を中心に —

The consideration about New Public Management

秋山 義 継
Yoshitsugu Akiyama

NPM (New Public Management) の考え方は、従来の行政経営を抜本的に変える革新的なものである。NPM は自治体の行財政運営に民間企業における経営手法、経営理念を導入し、顧客志向、戦略・ビジョン、権限委譲、分権経営、市場メカニズムの活用、成果主義の指向、説明責任等を求めたところに特徴がある。NPM は自治体の行財政運営において、多くの局面でこれまでと違った経営手法を提供することができる。組織面では、フラット化といった特徴を示している。また、地方分権改革と NPM はほとんど同時期に登場したが、地方分権改革が政治課題として浮上し、国による法改正という形で進んだ。これに対して、NPM は自治体自らが改革の手法として能動的に選択したことは注目すべきである。

NPM は民間企業の経営手法を行財政運営に生かそうとする考え方である。PPP (Public Private Partnership) は、政治主導型の NPM に対し、住民参加・協働を重視する考え方である。イギリスのブレア政権のベスト・バリュー施策が代表的である。

ここでは、NPM、PPP の一つである PFI (Private Finance Initiative) やコンセッション型 (concession) などを整理し考察する。